

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 38 週 (9 月 18 日～9 月 24 日)

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 乳幼児に特に注意 咳エチケット 手洗いの励行を

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 減少」

第 38 週は前週比 23.6%減の 1,821 例の報告があった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、ヘルパンギーナの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 2.6、2.6、1.3、0.9、0.5 である。

感染性胃腸炎は前週比 23%減の 529 例で、中河内 4.8、南河内・泉州 3.9、三島・北河内 2.4 の順である。

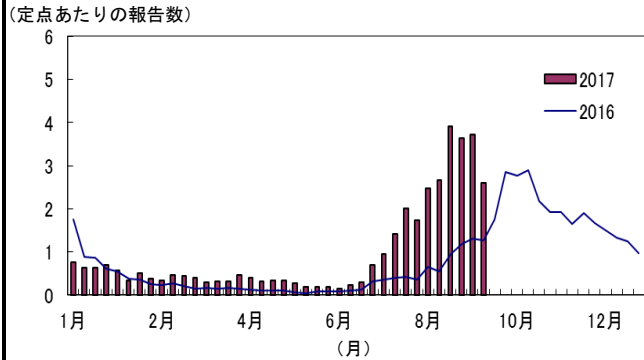
RS ウイルス感染症は 30%減の 521 例で、大阪市北部 5.1、南河内・中河内 3.4、堺市 3.1 と続く。11 ブロック中 9 ブロックで減少した。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 13%減の 269 例で、三島・豊能・中河内 1.9 であった。

手足口病は 24%減の 176 例で、中河内 1.7、大阪市南部・南河内 1.4、北河内 1.0 である。

ヘルパンギーナは 15%減の 90 例で、大阪市北部 1.5、北河内 0.9 の順であった。

RS ウイルス感染症



感染性胃腸炎

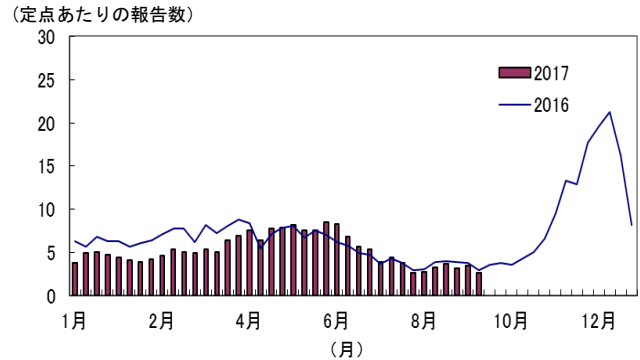


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29) 年 第 38 週 9 月 18 日～9 月 24 日)

第 38 週 の順位	第 37 週 の順位	感染症	2017 年 第 38 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 38 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 38 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	2	感染性胃腸炎	2.6	23%減	2.9	1 歳_14%
2	1	RS ウイルス感染症	2.6	30%減	1.3	0 歳_36%
3	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.3	13%減	1.6	4 歳_13%
4	4	手足口病	0.9	24%減	0.4	1 歳_28%
5	5	ヘルパンギーナ	0.5	15%減	0.4	1 歳_40%

第 38 週のコメント

～ クロイツフェルト・ヤコブ病 ～ 大阪府では、毎年 10 例前後の報告があります

全数把握感染症

クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) は 100 万人に 1 人の割合で生じ、脳組織のスポンジ状変性を特徴とする疾患である。我が国における発症年齢の平均は 62 歳であり、女性が男性よりやや多い。異常構造を有するプリオン蛋白が中枢神経系に蓄積し、不可逆的な致死性神経障害を生ずる。初発症状は、記憶力低下、計算力低下、失見当識、行動異常などの高次機能障害であり、数ヶ月で痴呆、妄想、失行、歩行困難に至り、1～2 年で全身衰弱、呼吸麻痺、肺炎などで死亡する。経気道感染はないとされるが、大量に病原体を経口摂取した場合の発症が疑われている。現在、有効な治療法はないが、実験室レベルにおいて、プリオン蛋白増殖抑制作用を有する抗マラリア薬および向精神薬が見つかり、治療薬として期待されている。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

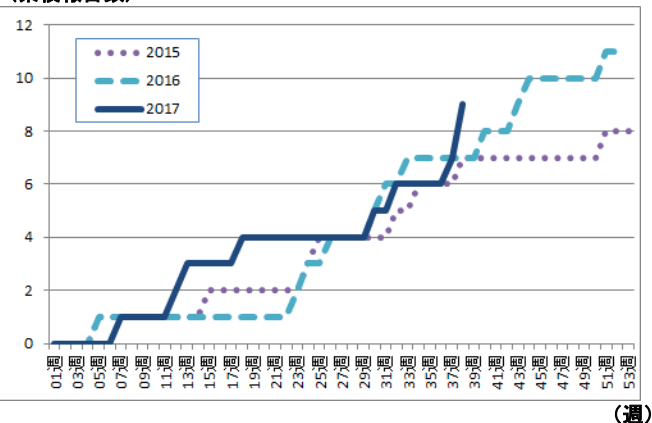


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 38 週 9 月 18 日～9 月 24 日)

*) 注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2名 (堺市 1名、泉州ブロック 1名、府内累積報告数 138名)
4類感染症	レジオネラ症 1名 (泉州ブロック 1名、府内累積報告数 57名)
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	クロイツフェルト・ヤコブ病 2名 (中河内ブロック 1名、南河内ブロック 1名、府内累積報告数 9名) 後天性免疫不全症候群 1名 (大阪市 1名、府内累積報告数 130名) 梅毒 2名 (北河内ブロック 1名、大阪市 1名、府内累積報告数 546名)
結核 (2017年7月分)	結核 新登録患者数:183名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 86名) (府内累積報告数 1127名、内 肺・喀痰塗抹陽性 470名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2017年9月26日 集計分)